



## 国際ピアノコンクールを終えて



高松市長

大西 秀人

4年に一度開催される第3回高松国際ピアノコンクールが去る3月23日成功裡に幕を閉じました。私も何度か会場に足を運び、真剣勝負のコンクール独特の緊張感ある雰囲気と素晴らしい演奏を楽しませていただきました。優勝したのは、出場者中最年少であった18歳の韓国女性ムン・ジヨンさん。審査員の中から「(現在、最も高い評価を受けているピアニストの一人である) マルタ・アルゲリッチの再来か」との声まででたというほど、とても18歳とは思えない美しい音色を持った完成度の高いピアノ演奏を披露してくれました。2位になったのも卓越した演奏技術を持った弱冠19歳のベラルーシの青年、アンドレイ・シチコさんでした。

現在我が国で国際音楽コンクール世界連盟が正式に認めているピアノコンクールは「仙台国際音楽コンクール」と「浜松国際ピアノコンクール」の2つだけであり、それに次ぐのが高松国際ピアノコンクールだということです。期間中、国際音楽コンクール世界連盟のマリアヌ・グランビック事務総長が視察に見え、会場の環境や設営、運営状況、観客の雰囲気などに関して、温かいお褒めの言葉とともに非常に高い評価をいただきました。実際、世界20の国と地域から239人の応募があり、予備審査を通過した33人が高松での本戦に臨んだ今回のコンクールは、これまでも増して全体的に演奏レベルが高かったと評判でした。今回の成功により、高松国際ピアノコンクールは世界中から若き才能を見だし世に送り出す「若手ピアニストの登竜門」としての性格がより明確になり、知名度と評価も更に大きく高まったのではないかと思います。

2006年に行われた第1回の成功を耳にしたとき、私は正直、故郷香川で国際ピアノコンクールが開催されたこと自体に大変驚きました。同時に、出身者として大いなる誇りを感じたものでした。その後2010年の第2回、そして今回と組織委員会顧問としてその運営に関わることが出来たことは、個人的にも非常に光栄で嬉しく存じているところです。

創造都市推進ビジョンで高松を代表する文化芸術の「祝祭」として位置づけられているこのコンクールは、間違いなく「高松 (TAKAMATSU)」の名を世界中の音楽ファンに知らしめる絶好の機会となっています。このような有難く、素晴らしい事業を民間主導でゼロから立ち上げられ、これまで運営してこられた関係者の熱意とご労苦に、改めて心から敬意と感謝の意を表したいと思います。